

Trial & Error トリアル・アンド・エラー No.63

試 行 錯 誤



カンブチアの花嫁(平塚市)

特集 日本定住8年目

難民とボランティアの距離	2
日本に暮らして	
— 定住者の若者に聞く —	4
ルポ 国際救援センター、大和定住促進センター ..	8
日本における難民の立場	11
日本語家庭教師活動の新体制	12
タイの仲間たち	13
世界まんが博'86 GREEN FOR AFRICA	14
弟の不幸せを知らない、兄・日本	18
JVCNEWS	20

難民とボランティアの距離

日本語家庭教師コーディネーター 森山久寿子

何が違って、何が変わらなかったか

昨年の秋口から、まるで示しあわせた様にインドシナ料理の店が、次々とできた。その多くが、留学生の経営である。エスニック流行りとはいえ、経営はまだまだこれからという所が多い。どの店の人も身内の新しい定住者を抱え、経済的に安定した収入を得ることを目指している。

留学生と出会う機会のなかった私は、彼らの姿をみて新鮮な印象を受けた。今までになかった新しく、そして古典的な生活手段である。留学生たちは日本にきて10数年かかった。うまくいくかどうかは、またこれから何年もかかるだろう。

私が出会った人達は、日本にきて、長くて5~6年である。請求書の意味が判らない。貯金でなんですか。ストーブの使い方はこれでいいですか。仕事をやめたい、頭や首がいつもいたい、どうしたらいいですか。そんな話をいつもしていた人の顔色はさえず、行くたびに心配だけして何もできない無力さを感じた。それでもこの無力感を逆にエネルギーとして、いつか何とかできるようにしたいと思い、これまで活動を続けてきた。

そうこうしているうちに、彼らの方が経験を積みしたたかさを身につけ、おちついた生活をしていた。よくも悪くも毎日の生活環境が、彼らに新しい価値観と物質的要求と精神の迷路を作りだした。

日常のこまごまとした問題は、少しずつ解決をしていく。慣れていく。転職をした人の話をきくと、それをまねて転職していく。そんな暮らしぶりを横でみているだけである。職を変え、収入を増やし、奥さんがパートに出、お金を貯めて、大きな冷蔵庫を買い、ビデオを買い、免許取得の勉強をし、車を買う。みんなが持っているものは自分も持ちたい。

何もかも取り揃えられた家の中で、次に子供の教育に力を入れる。日本人がやっている生活パターンと何ら変わる所はない。戦後、日本が目ざましく復興してきた経験を私はよく知らないが、その凝縮版を目の前でみている感じである。もし戦後の復興から、1986年までをひとつの線にし目盛りをつけて、戦後を0として1986年を10にするなら、同時点で、

0の人と10の人が同居している奇妙な光景に出会う。私達日本人が目ざしてきたものをモデルとするなら、まさに現実のギャップは、優越感と劣等感を生み出し、やみくもに働くことを至上の目標とする。

安っぽい言葉だが「私たちが失くしてきた何かを彼らはもっている」そんなことばが活動当初、よくきかれた。今も彼らは持ちつづけている。生活に追われ、やみくもに働いていても、持ちつづけている。

好きだけど嫌いだ

どの家に行っても、やさしく迎え入れてくれる。多分、誰が行ってもそうだろう。何てやさしい人達だろうと思う。頭で描いていた悲惨な人達ではない。明るくて、強い絆に結ばれている家族に出会う。

何とかしてあげたい、何かできるんじゃないか、こんなにがんばっているのに苦労して気の毒に、とまず誰もが思う。毎週、通ううちに仲良くなっていく。彼らにとって頼りになるボランティアになるのである。“お助けマン”にみえてくる。そして、そこで持ちこまれる問題に対してボランティアは、自分の無力さを感じさせられるのである。お助けマンにはなれないと気づく。そのうち家庭訪問している家族以外の人とも友人になる。表面的にしかみえなかった家族の裏の顔もみえてくる。ある日、助けてあげていたはずの人から、「もう来なくて結構です」と言われる。

「あんなにしてあげたのに、どうして」と、やはり誰でも思うのである。

そこで、ひどい人達! と思って離れていくか、どうしてこうなったか立ち止まって考えるかで、その後の関わり方がぐっと変わる。

自分にとって彼らは何なのだろう。

定住者、難民という色めがねを外してみると、彼らも愛憎の中で格闘している同じ人間なのである。このあたり前の事実の前で、私たちは、相手の人生を何とかできるという錯覚に陥っている。

離婚したいんです。というのは夫婦の問題。親の決めた人と17才で結婚しますというのも、はたからみれば、不幸にみえても、結局は本人の問題。人生

やけっぱちになってぶらぶらしていても、最終的に立ち直るのは自分の問題。

家庭訪問して、彼らの私生活に関わりながら、どこまでが彼らの問題かをみきわめたら、私たちがやることは、見守るだけなのかもしれない。ただし彼らがどんなに頑張ってもだめなこと、社会的に理不尽に受け入れられないことに対して、私たちは本当に、考え行動していかなければならない。

彼ら自身の問題は彼らにまかせる。そうしないと、どうしても彼らは頼ってくる。頼られるのはうれしいが、それは相手のためにならないことが多い。断ることは難しい。逆うらみされることもある。あんなに好きだった人と顔もあわせたくなくなる。そういうことを乗り越えて、それでも目指すものに向かっていく。1人1人の視点が問われるのである。自分は無力だけれど、あきらめてはいけないということを活動を通して学ぶ。それは彼らが生きていく上でも、問われる姿勢なのではないかと思う。

三つ子の魂は、やっぱり消えないか

私たちの社会は、目に見えない上下関係である程度、区分されている。一昔前なら、もっと厳しい階級が存在していた。日本にくる前、政変がある前の彼らの社会にももちろんあった。

それは、30代以上の人には抜けがたい社会の慣例として脈うっている。若い層もその慣習からは抜けられない。また、日本へきてから彼らはその慣例を組み立て直そうとしている。各民族がもつ独自の集まりには、部外者である私たちは入りこめない。各家庭へ訪問している時は、民族社会のほんの一部と関わっているだけだから全体像はみえない。

全体をみるために彼らの集まりに出かけたりする。家庭ではボランティアに対してにこやかな人が、民族の集まりでは、みんなを厳しくとりききったりして、以外な一面をみせられることがある。それが時々、意味のない権威になって、周囲の人に迷惑をかける。ボランティアからみて、1人1人はとてもいい人だが、民族の中では必ずしもそうではない様である。たとえ昔、国にいた頃偉かったからといって、こちらでそれをふりかざす必要はないと思うが。そこらへんは、彼ら自身が判断していくことだろう。

何が問題かという、彼らの興味が政治活動に熱が入りすぎていて、今、取り組まなければならない生活の問題が後回しにされている点である。これは個人的な要求かもしれないが、周囲のボランティア

が、問題に取りくんでも、彼らはお客様になってしまう。誰かがやってくれるだろうという考え方は、社会と積極的に関わるチャンスを逃してしまう。祖国でも、日本にきて、昔の権威にすがって生きていたら、現実とはかけ離れた世界を生きることになる。

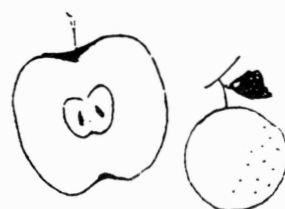
生き方なんて100通りもある

歌の文句ではないけれど、人間の生き方は自分で思っている程窮屈ではないと思う。定住者を見てるとそう思う。日本社会の価値観の波に呑まれたり、泳ぎきったり、どっちへいくのやら不安にかられることもある。祖国から一緒にやってきた価値観と生活を日本社会のそれとうまく取りまぜて何とかやっている。災難にあうこともある。出世することもある。それぞれの生活を大切にしながら(大切にできずこわしてしまうこともあるけれど)、生きている。私など隣に住む人の人生にだって関わらないのに、定住者の人生に関わっている。そのことの意義、個人にとって、社会にとって、どんな意義があるのか。きちんと、定住者とともにとらえる、その作業がなければ、単なるいい経験で終わってしまう。日本社会の人権感覚に対する鈍さを思うと、この活動の意義は果てしなく広がっていく。関わっている人、定住者を含めて1人1人の問題なのだ。定住者が定住者をいじめるということもある。日本人が日本人を、日本人が定住者を、定住者が日本人をと、いくらでも片方が優位に立ち、片方が劣勢になることはある。

バランスの難しさは、関わりあう両者の問題である。決してボランティアだけが片づけるものではない。

どうしたら、共に考え行動する仲間として連帯していけるのか、それとも、援助する側とされる側のままで、片づけてしまうのか。

私を含めて1人1人の関わり方が、この活動の方向を形づくっていくのだろう。



日本に暮らして

——定住者の若者に聞く——

聞いて 落合正幸

自分の国は忘れません

シハラッ・ピラット 男性21才 ラオス

「友達には“あきみ”と呼ばれているんです」。わりと小柄な彼は明るくそんな自己紹介をはじめた。「5年前、大和定住促進センターを出て16才ですぐ仕事につきました。あのころは朝から晩まで仕事ばかりしていました」。彼の日本語は日本人と変わらないほどしっかりしている。時々放つ冗談もセンスがいい。彼からは高校生らしさを感じられる。現に、夜間部の高校3年生なのだ。「僕の学校では、学年が進むと生徒が減ってきます。1年生の時は33人いたのに、2年生の時は26人に減り、3年生の今は17人になってしまったんです。僕は途中でやめたくないから必ず最後まで通います。僕の学校で外国人は僕1人だけなんです。国語はやっぱり難かしいな。体育が一番得意」。今回あった若者の中で彼は一番年下のせいか学校についての話しは尽きない。

ニコリ顔のピラットに卒業後の話を聞いてみると彼の顔が少しかげる。「卒業したらほんとに大学へ進みたいんです。3年前やっと高校に入学したけど、大学へ行くのはもっと大変だと思う。僕には弟と妹がいるんです。それと病気の母もいます。お兄さんと僕が働かなくちゃいけない。今の給料は13万ぐらいだけでもらってもすぐなくなってしまうから……」。

今、ピラットは家族のために仕事に専念すべきかどうか悩んでいる。彼が思わずもらす。「僕1人だけならどうにでもなります。大学も行けるし……。1人暮しもできる。僕の家は、狭いんです。平塚の雇用促進住宅に母と妹と弟と兄と5人で住んでいます」。ピラットはこの5年間ずっと生活のために働き続けてきた。これからも彼は家族をささえていかなければならない。

少し早い結婚についての質問をする。「結婚は考えてないけどガールフレンドはたくさんほしい。僕は人生の経験が浅いから1人の人とだけつきあえるかわからないんです。結婚は運を天にまかせるし



かないかな〜。それに先輩や友達や先生など、今自分の周りにいる人を大切にしたいです」。「ピラットは、平和になったら自分の国へ帰りたと思う?」「平和になったら帰りた」。彼の目の色が変わるのがわかる。「人間て1人1人違うでしょ。きっとラオス人の中にも帰りたと思う人と帰りたくないと思う人がいると思う。でも僕は帰ってみたい。僕の国はラオスなのだから。僕は自分の国を忘れたくないです。キリングフィールド（カンブチア難民の映画）を見て涙が出ました。僕の国も同じです。今は若いけど、何年もたったら僕はきっと自分の本当の国へ帰りたと思うようになると思います」。

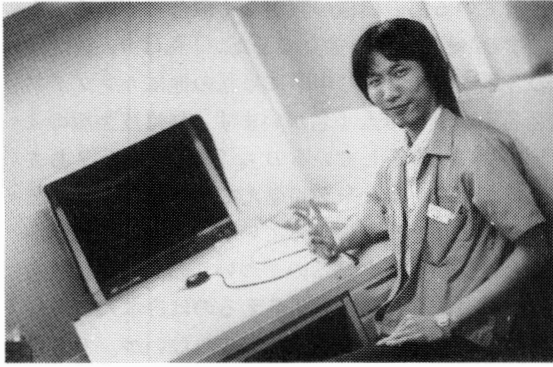
最近彼は50ccのバイクを買った。この前は相手の不注意で交通事故に遭い肋骨を折る災難にもあったようだ。その時のことを冗談まじりに話して聞かせてくれる。ピラットは自分が背負っているたくさんの苦難を受けとめようとしている。そして彼は日本の高校生にも負けたくないほど若さと夢をもっていった。

ほかの国の言葉も認めてください

キツ・ジュウン 男性28才 ベトナム

彼は十二指腸潰瘍で入院中の身で、翌日退院予定だった。だから今回の企画で集まるのに彼は病院から外出許可を得ていた。仲良くなった日本人の看護婦さんも同伴だった。なんとも変なことになってしまった。

「僕は、6年前ベトナムから22才で日本に定住しました。今28才です。今は電算オペレーターの仕事



- P4 JVCの仲間たちに囲まれたピラット(中央)
- P5(左)ジュウンは会社でも勉強でもがんばり屋だ
- P5(右)ちょっとすましたチャンリッ。やりたいことはまだまだたくさんある

をしているんです」。ジュウンはまず会社に入った時のことを話してくれた。「会社に入った時はコンピューターなんて全々わかりません。会社へ見学に行った時、部長さんが印刷の機械と電算とどちらをやってみたくないと聞きました。僕は電算をやってみたかったけど、できるかどうかわからなかったんです。その時に部長さんは『もし好きならやってみろ』と言ってくれました。そしてタイブ学校へ2カ月通いました。会社に入って4カ月くらいには仕事がこなせるようになりました。僕は会社では絶対失敗しないようにしています。間違えれば、データを全部消してしまうこともあるのでいつも緊張してやっているんです。[それじゃあ、今はもう仕事もバッチリだね!] そういうとジュウンは少し考えるように黙った。そしてこちらに目を向けて「バッチリではないけど、でも負けません」。その後少し恥ずかしそうに下を向いて笑った。

負けない相手とは、同じ会社の日本人なのだと理解できた。彼を応援したくなる。ジュウンは優秀だ。事実、彼は数種の言葉を話せる。日本語、英語、タイ語、中国語、ベトナム語。まだまだ、いろいろなことを勉強したいという。将来の夢について聞いた。「僕は将来自分の店を持ちたいんです。何の店かはわからないけど、お金を貯めて店を開きたいです。でも今は資本がないからできません。それから言葉を学びたいです。今一番興味があるのが言語です。日本語ももっとしっかり覚えたい。他の国の言葉も……。そしてもっとお金が出来て自由になったら外国へ行ってみたくいです。

「自分の国へ帰りたい?」また少し考えてから口を開いた。「僕はあまり帰りたいとは思いません。自分の国へ帰るより他のいろいろな国へ行ってみたくいです。僕はベトナムで生まれたから習慣とかできると暮しやすいと思うけど、今は帰りたいのかどうか自分でもわからないんです。でも旅行なら行ってみ

たいです。自分の国が今どうなっているのかしっかり見てみたいです。ただ僕がもっと年をとったとき、もしかしたら自分の国に帰ってみたいと思うかも知れません」。

ジュウンには少し答えにくい質問だが、最後に日本人についての悪いところを聞いてみた。彼は戸惑いながらも正直に話してくれた。「僕の知っている日本人の中には、自分以外の言語を聞くと笑い出す人がいるんです。友達とベトナム語で話しているとその人はバカにします。そして僕たちに会社ではベトナム人同士でも日本語で話せと言います。他の言語を認めてくれようとしません。この世界にはたくさんの方がたくさんの方の言語を話しているのに、そういうられる時悲しいです。「日本人は、外国へ行ってみたくいと思う人は少ないし、外国を知ろうとする人も少ないと思う。だから自分が一番えらいと思ってみたくい。僕は自分の知らない外国の良いところをたくさん学びたいです」。ほんとうに率直な意見だと、日本人として感謝したい。ジュウンさんも早くその十二指腸潰瘍を治して、誇りをもって仕事に復帰して下さい。

もっと勉強しなきゃね

ベン・チャンリッ 男性24才 カンプチア

日本にきて3年目ということだが、それにしてもよく日本語を使いこなしているなと思う。人を食ったような冗談がよく出てくる。「今の仕事は、クレジットカードやキャッシュカードを入れて使う機械を作っています。もし、道におちているカードをひろったりすれば、そのカードの暗証番号を読むこともできるけど」。[そんなことできるの?!] というと「うちの会社では、社員各人の絶対の信用が必要だから、そんなふとどきなこと考える人は1人もいないよ。僕自身、失敗は絶対しない。会社の人も僕を大切にしてくれる。その期待にこたえたいから」と、

自信に満ちて答えてくれた。

会社を5時にひいて、まっすぐ都立の定時制3年の授業へ通う毎日である。「勉強したくて、したくて学校へ行ってんだけど、日本人は遊んでばかりで、最初はガッカリした。中にはまじめな人もいるけど、もっと勉強できる学校へ行きたいよ。でも、自分は自分で、頑張るしかないなあ、とも思っている」。

〔高校が終わったら、どうしたいの?〕「やっぱり大学へ行きたいけど、それよりも専門学校へ行って、技術を勉強した方がいいかな、とか迷っています」と語る彼は、日本の社会が今のままの自分では容易に受け入れてくれない現実を悟っているようだ。

結婚については、やりたいこと、やらなければならないことが、まだまだあって、4~5年は考えられないという。〔でも、カンプチアでは、親が相手を決めるんでしょ〕「親に従うかどうかは自分次第。自分の覚悟があればふりほどける」と実にはっきり自分の意見を言う。日本には母親と2人の兄がきている。各々の道をしっかり歩きなさいと、母親は言うらしい。

〔カンプチアへは帰りたいですか?〕「帰りたい。でも無理でしょ、だからといって、日本にずっといようとは思わない。アメリカとかオーストラリアとか行って暮してもいいよ。全然、平気。まだ、日本とは何か、日本語は完全にできるかと考えると、ここで勉強しなくちゃね」。

〔じゃあ、今一番興味あるのは、勉強かな〕「やらなきゃいけないなあと思うのは、勉強。一番興味あるのは、お金をがんばってためることかな。(笑)カンプチアだったら、お金なくてもよかったのに日本はどうして、お金、お金、なんだろうね。お金なんかいらんよ、本当に」。

話しながら、力をガククリおとしたようにみえた。一見、日本人のようにも見えるし、初めは何人なのか判らない。よく間違われるし、会社では、カンプチアの名をした日本人だと言われているらしい。どこへ行っても彼特有のジョークと誠実さで人気者である。「日本人が、バカヤローとか、テメーコノヤローとか汚ない言葉を使うのを聞くのはイヤだね」と日本語の使い方を教えてくれました。

この服は私が作りました

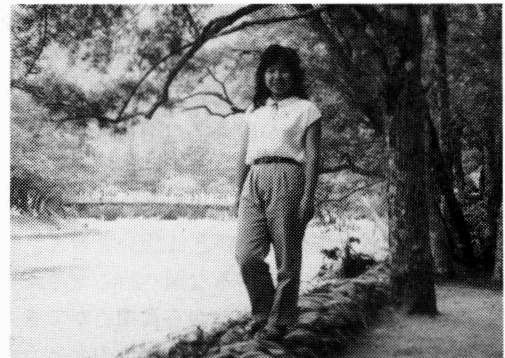
フェン・チャンティー 女性23才 カンプチア

「カンプチアから来たチャンティーです。私は日本に来て6年くらい」。今回の唯一の女性参加者であ

る。着ている縞の模様の服がよく似合っている。人と話すのがとても好きな女の子だ。「私は今、夜間中学の3年生です。同じ中学には私の他にカンプチア人2名とベトナム人1名がいます。昼は既製のミンシンの仕事をしているの」。「失敗ですか?あまりありません。時々糸を間違えてつけたりするけど……。とにかく真剣にやっているもの」。「不良品が出ると社長がとても怒るの。ついこの間も何百枚も不良品が出ました。でも間違えるのは日本人の方なの」。多少発音がおかしいかも知れないが、とてもわかりやすい日本語で話してくれる。

〔もしかしたら、その服もチャンティーが自分で作ったの?!〕「はい」。ニコッと笑う。「中学を卒業したら洋裁の専門学校か夜間高校へ進みたいです。せっかく行くなら途中でやめずに最後まで通いたいから迷っているんです。それに自分の生活もあるし……。チャンティーはお姉さんといっしょに住んでる。両親はもういない」。

「10年後ですか? 考えていない。今は自分のことは自分でやっていきたい。できれば高校へ行きたいけど。仕事に結びつかないし、自分の生活もあるから難しいかな」。(結婚についてはどう思う?)と聞くと少し恥ずかしそうにしてからいう。「今のところは自由の時間がほしいです」。(何才までに結婚したい?)「それは縁の問題だから、したいと思っても思うとおりにはいかないでしょう。今は1日1日をしっかり過ごしていく感じ。明日はどんなことをしようかなって考えながら生活してるの。結婚はカンプチアでは親同士が決めるでしょ。子供は親に育ててもらった恩を返さなければいけないから。私には両親はいないけれど、もし他に好きな人がいたら結婚しなさいと言われてもしないと思うの」。チャンティーのようにはっきりと自分の意志を言えるカンプチア女性は少ない。「結婚する人はどこの国の



好奇心旺盛、旅行も大好きです

人でもいい。でも言葉の通じる人。そして暴力をふるう人はいや」。彼女はこの日本でしっかり自立して生きている定住難民の一人だ。

〔チャンティーは日本人を恐いと思ったことある?〕(少し考えて)「私はない。いつも堂々と言い返せる自分でいたい。友だちのキャンプチア人には日本人に何か言われるとハイハイと言う人もいる。私のお姉さんもおとなしくてあまり話さない人だけど、私は間違がっていることには従いたくない」。

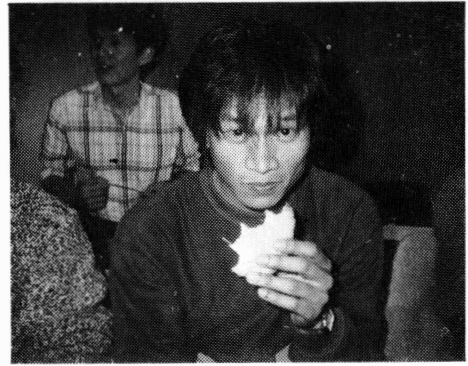
〔今、何に興味がある?〕「テニスやってみたい。ボーイフレンドですか?ほんとうはほしいけど、いないもん」。(キャンプチアへは帰りたい?)「帰りたいとは思わない。でも遊びに行ってみたい。私の生まれた国だけど私の国ではないから、もし戻ったらまた一からやり直さなければならぬもの。私は中国人だからほんとうのキャンプチア人ではないし、帰っても親類なんて1人もいない。それにキャンプチアの学校でもキャンプチア人が中国人をバカにするの。私はキャンプチアのその人たちだけは嫌いです」。(チャンティーは料理はどう?)「エーッ。自信ないナー」。(一瞬戸惑うチャンティー)〔でもチャンティーの旦那さんは、洋服には困らないね〕「うん。それは自信がある」。チャンティーはクスクスと笑った。

仕事が終わったら野球を見ます

センスリヤー・ノアン 男性27才 ラオス

「5年前に1人でラオスから日本に来たんです。今は大型トレーラーの運転手をしています」。今回話した定住難民の若者の中で最高所得者だ。「半年前、やっとの思いで大型牽引免許を取って今の会社に入ったんです。でも免許を取るのには、本当に大変でした。今はなんとか仕事にも慣れたけど、カーブを曲る時とか初めは恐かったですヨ。トレーラーには、車を6台乗せられるもの、9台乗せられるものと種類もいろいろなんです。朝は午前3時ごろに仕事に行くんです」。(夏はいいけど冬は寒いだろうね)「ええ」。彼はどちらかという物静かな男性だ。「座間にある工場からニッサンの輸出車を港へ輸送するんです。港へ着いたら運んできた車は、自分で運転して港へ降ろします。仕事は夕方の4時ごろには終わるようにしているんです」。(朝早くて眠くないのかな?)「横浜はまだいいけど横須賀へ行くときは大変。帰りも遅いしね」。

今年27才のノアンは、日本での自分の生活をしっかりものにしている。3年前に買った自家用車は去



年ローンが終わった。彼の自宅は3DK。電話、ステレオ、ビデオ、定住難民の若者の中ではかなりの生活だ。ノアンは、単身で定住している。だから日本ではどちらかという孤独の身だ。ノアンが言う。「仕事が終わって自宅に帰ると野球を見るんです。巨人が好きで応援しています。僕は酒もたばこもやらないし、1人だとやっぱり寂しいです」。

彼は正直に今の自分について話してくれた。これは結婚についての質問に対し、彼が打ちあけてくれた話しの1つだ。(ノアンは結婚しないの?)彼は言おうか言うまいか少し迷うようにしてから口を開いた。「僕はつい最近ほんとうは結婚する予定だったんです。式の日取りも決まって、準備も全部自分でした。ところが結婚の10日前に彼女の父親が突然、結婚はダメだと言ってきたのです。どうして急に反対したのかわけがわかりませんでした」。今年の5月のことで今はもうだいぶ落ついたらしい。「彼女は父親に逆らってまで結婚できないと言うのです。全ての自信を失ってしまった感じでした」。(同じラオスの人?)彼はうなずいた。「結婚式に呼ぼうとした友だちに1人ずつことわって回りました。とても恥ずかしかったです。だからしばらくは、結婚は考えられないんです」。「でも、今はもういいんです」。彼は自分に言いかけせるように言った。この日本でノアンは誠実に生きてきた。5年間がんばった甲斐あって生活力もある。彼から次の結婚式の招待状をもらうのも、そう遠くないのでは……。〔元氣だしてノアンさん!〕

— 最後 —

今回の企画で、私自身も日本人の若者の1人として、みんなと本音で話し合いました。彼らにしてみれば書いてほしくないこともあったと思います。でも読まれた方が彼らの気持ちを理解し、日本人と対等であることを意識して下さるなら、いつか又こんな機会を作れるかも知れません。(落合)

国際救援センター

隔離された空間

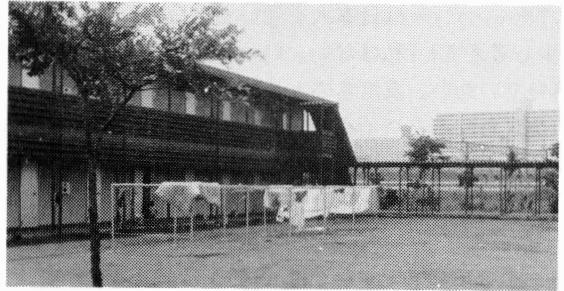
品川駅からバスで15分、国鉄大井貨物ターミナルの広大な敷地の中に国際救援センターはあった。フェンスの外側には夏草が茂り、貨物を運ぶレールがいく筋も通っているが、人影はなく静まりかえっている。

このセンターが運営を開始したのは1983年4月。ボート・ピープルが激増し、民間の一時滞在施設が満杯になったのと、難民の庇護を国が民間に任せておいていいのかということから日本定住のための施設として作られた。

応接室で待っていると課長の藤井さんが汗をふきふき入ってきた。「いやー、今日は1日中しゃべりっぱなしでしたよ」。疲れた、というようにソファーにドスンと腰をかけた。8月になって第三国の受け入れが決まる者が多く、救援センターはトラベル・エージェントの様を呈しているという。受け入れ国はやはりアメリカ、オーストラリア、カナダが多く、ノルウェー、オランダ、西ドイツ、それに8月28日にはイタリアに発った難民もいる。

救援センターができたころは国内の施設で生活してきた者が多かったので、日本の空気に触れることもあり日本定住希望者が85%もいた。しかし3年目にしてこの数字は逆転し、入所者の80%が第三国へ行くことを希望している。ところがその中で希望がかなえられるのはごくわずかだ。現在まで1393人が入所しているが、この内入所中に第三国定住が決まったのは155人、退所後に決まった57人を加えても全体の15%である。(7月31日現在)

センターの中を歩いてみて感じられるのはその広さだ。管理事務所から8棟の宿舎をつなぐ渡り廊下の長いこと。720人収容の施設に現在は200人余りしか入所していないため、がらんとしている。空地の向こうには八潮団地の建物が、まるで別世界のように建っている。センターだけが日本の日常から隔離されているようにも見える。日本語を教えている矢沢さん(パナニコムでJVCのボランティアとして日本語を教えていた)は、「環境はいいのですけど市街地から離れているでしょう。日本語の種類も限られてしまって。『日曜日はどのようにして過ごしましたか』と聞いても『バスで品川まで行きました』か『部屋にいました』かのどちらかなんです」。



トランジットセンターと定住センターを兼ねる

最近では日本での滞在期間が短くなったため、日本語をほとんど解さない人も増えてきた。センター内の表示には必ずといっていいほどベトナム語が書き添えられている。したがってベトナム語の通訳もここでは重要な役目を負っている。マイクでの呼び出しから悩み事の相談にいたるまで、日本人の職員の手が届かないところをカバーする。

いたるところに氾濫しているベトナム語と、りっぱな日本語教室はどうしてもちぐはぐな感じがする。日本語の先生方の熱心さにもかかわらず、ここでは大部分の人がアメリカやオーストラリアなどの国々への夢を描いている。彼らは日本語の授業に熱心になれない。また第三国が決まっている人も日本語のカリキュラムはシステムの中に組みこまれているため、不必要でもこなさなければいけないなど、実情に沿わないところもある。その点に関しては英語教室の開設を検討しているところだ。このようにトランジットセンターと定住センターが同居しているための矛盾もおきている。

それでは入所から定住、あるいは出国までのスケジュールはどうなっているのだろうか。まず最初の2週間は外国人登録をしたり、個人面接によって日本語のクラス分けを行う。そして3カ月間日本語教育を受けた後、次の3カ月で社会適応訓練を行う。この間に実際に電車やバスに乗ったり、銀行や病院に行き、日本での生活が困らないようにする。これでセンターでの生活は一応修了であるが、就職先を探したり定住国へ出国するまで待機するため、実際に退所するには7~8カ月かかる。退所後の問題については基本的に救援センターには責任がなく、厳しいことは厳しいが彼らは自分たちで助けあってなんとかやっているようだ。

大和定住促進センター

3 民族同居の施設

大和定住促進センターは品川の国際救援センターとはうってかわり、深い木立に囲まれ一般の住居とも隣接したところにある。ここは名前のおり定住を促進するためのセンターなので、入所者にも日本に定住するんだという意気込みが感じられる。現在はここにカンブチア人12名、ラオス人14名の計26名(8月1日現在)が入所している。今はベトナム人の入所者はいないが3民族が同居できるのは民間の施設も含めて全国でここだけである。入所者はパナニCOMのJVC日本語学校で学んできており、退所したあとも日本語家庭教師たちとのつながりがある人も多いため“大和”はJVCともなじみ深い。

午前中は日本語と8月から始まった社会適応訓練のクラスを参観し、昼食をパナニCOMの浜崎さんの教え子だったラオス人たちといっしょにとった。私たちのような来訪者が多いのか、内藤所長がテキパキと見学のスケジュールを決めていく。

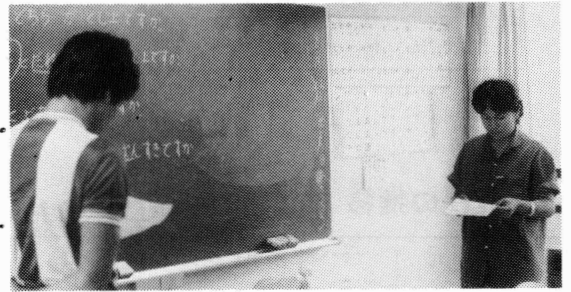
日本語クラスは2つに分かれている。1つのクラスではまだ日本語の挨拶がたどたどしかったが、もう1つのクラスではかなり長い日本語の構文も理解できるようだった。彼らは7月に入所したばかりだが、パナニCOMで4カ月間日本語を学んできているせいか日常会話にはほとんどこまらない。「センターの食事はおいしいか」という質問に、「おいしい時もあるけどおいしいくない時もある」とニヤッと笑った。

溶接とプレスは人気がない

午後は小平次長の就職相談を見学した。通訳を交えて仕事の内容、社会保険や社宅について説明を受ける。最近は大卒のため難民を受け入れていた企業も経営を縮小し、めっきり求人は減った。本国で技術を持っていた人もその資格は日本では通用せず、なかなか希望した職種につけない。どうしても機械の組立工とか製造業が多くなる。センターで紹介されても職場が自分に合わない場合は、仲間同士の口コミでより条件のよい所に移っていく。

溶接は目に悪いからといってカンブチア人が嫌い、プレスは指を落とすからとラオス人には人気がない。就職の担当者はその安全性を詳しく説明しなければならない。また大卒でもなんとかやっていると大企業からは求人はなく、景気に左右される中小企業

が多いため時にはボーナスの出ないこともある。担当者はここでも景気によってボーナスがでないことを説明しなければならない。差別に敏感な定住者たちは、約束されたボーナスが支払われないのは差別されているからではないか、とセンターに訴えてくることもあるからである。



大ぜいの人に支えられて

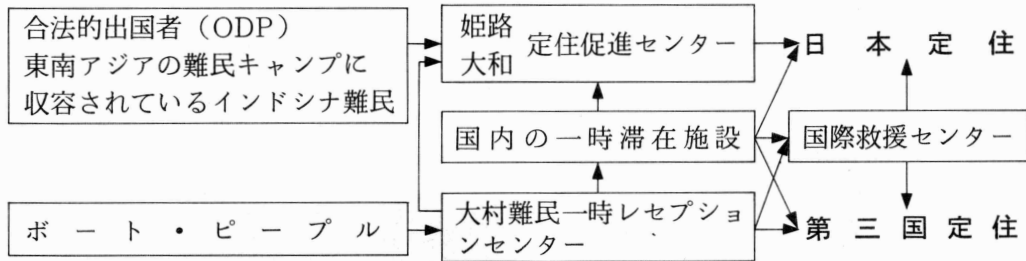
「その必要性は十分わかっているのですが……」と前置きして内藤所長は定住後のアフター・ケアが行き届いていないことを認めた。センターの仕事は難民が定住するまでが責任の範囲なので予算の上でも難しいという。センター内の難民定住相談員(1人)とISSの「難民定住相談員制度」で彼らの相談にはあたっているが、それでは不十分なので民間の力も借りている。それがJVCの日本語家庭教師プロジェクトであり、難民を助ける会のひまわり塾、太陽塾である。日本語を教えるグループはほかにもいくつかある。相互扶助については定住者自身が行っているが、内藤所長としては彼ら自身が落ちつける「いい家」がほしいという。

このようにこのセンターでは外部のボランティアとの結びつきが強い。なるべくセンターを開放し、多くの日本人に難民の人たちの実情を知ってもらいたいと思っている。私たちが訪れた日も小学校の5年生と6年生の少女が3人、先生といっしょに保育のボランティアに来ていた。特に夏休み中は女子高生や女子大生のボランティアが多いという。

また古着をはじめとして日本中から寄せられる物は調理器具、冷蔵庫、紙オムツなど多岐に渡っている。定住者に配布する下着は全織同盟から、歯みがきはライオン油脂からの寄付である。また朝食の卵と牛乳も定期的に差し入れがある。大ぜいの人に支えられて定住センターは6年が過ぎた。

〔資料〕

定住するまで

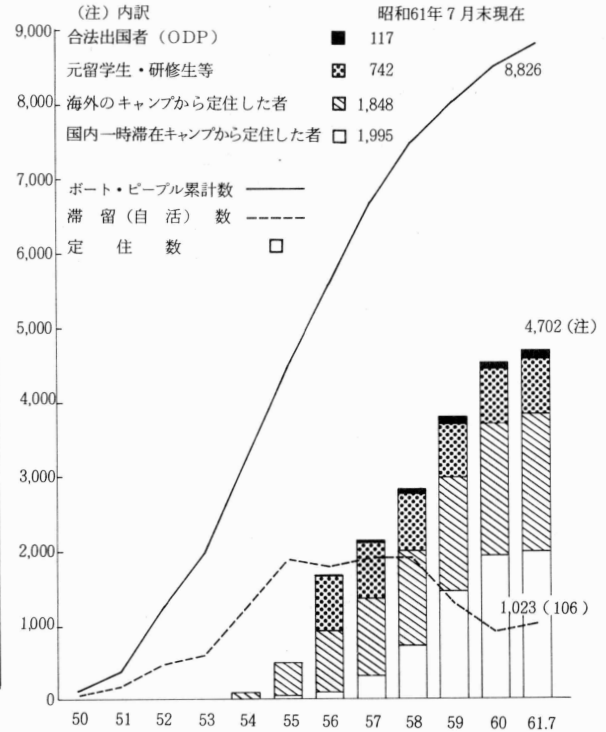


定住難民の推移

61, 7月末現在

年	元留学等生	合法出国者 (ODP) の者	海外からの定住者	国内施設からの定住者	定住数
53	0	0	0	3	3
54	0	0	92	2	94
55	0	0	346	50	396
56	742	20	393	48	1203
57	0	23	217	216	456
58	0	32	248	395	675
59	0	12	229	738	979
60	0	6	240	484	730
61 1~7	0	24	83	59	166
計	742	117	1848	1995	4702

ボート・ピープルの上陸及び定住数



各センターの入所・退所状況 (累計)

(注) は出生者数 61, 7月末現在

大村一時レセプションセンター			国際救援センター			姫路定住促進センター			大和定住促進センター		
入所者	退所者	在所者	入所者	退所者	在所者	入所者	退所者	在所者	入所者	退所者	在所者
3043	2841	202	1590	1393	197	1379	1293	86	1287	1261	26
(15)			(16)			(30)			(21)		

(外務省 人権難民課 資料)

日本における難民の立ち場

難民と1口にいてもさまざまな立場の人々が含まれている。『出入国管理及び認定法』によれば、難民条約(注)の規定によりこの条約の適用を受ける難民をいうとある。彼らは条約難民、あるいは狭義の難民ともいわれ、本国に帰ると広い意味での政治的な理由で、迫害や直接的な危険が及ぶと思われる人々である。日本は難民条約に加入しているのでこの規定に則り、彼らを保護しなければならぬ。難民と認定されれば、彼らは生活保護、健康保険、年金等の行政サービスはもとより永住条件の緩和、難民旅行証明書の交付(旅券に代わるもので、有効期間は1年ながら再入国許可なく我が国に出入国できる)などの特典がある。

ただし条約難民と認定されるためには本国における迫害等を客観的に立証しなければならず、証拠も乏しく口述だけでは大変難しい。1985年の申請の内認定されたのは171件、不認定は359件であった。

インドシナ難民は上記のような難民であるかどうかを別にして、閣議了解を根拠として人道的・政治的配慮により受け入れられた難民で、条約難民に準じた処遇を受けている。彼らは法務大臣の特別在留許可を得ている。(一般外国人は生活の基盤がなければ通常在留許可を得ることはできない)。なおインドシナ難民も難民申請し、認められれば条約難民

となることができる。

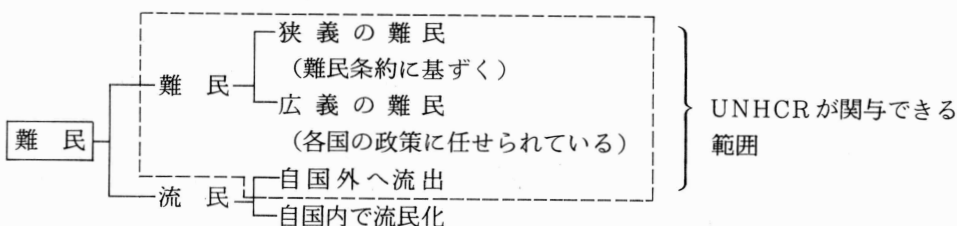
1985年の認定者の内100人以上はインドシナ難民と思われる。

インドシナ難民の中でも日本に定住した者に関しては便宜上“定住者”と呼んでJVCでは区別している。

日本にいる第3の難民としてイラン、アフガニスタン、ウガンダ、ビルマなどから入国している人々がいる。彼らは合法、非合法(偽旅券)で入国し、難民として申請するがほとんど認定されていない。偽造旅券を使った場合は一時庇護も受けられず、そのまま発券国に帰されることもある。認定されない理由は、条約難民としての要件を立証しえないことその他に、日本に来る前にいた第三国での生活の事実が、その国の保護を受けていたものとみなされることにもある、と思われる。たとえ入国できても条約難民やインドシナ難民のような法律上の枠組みができておらず、その保護は人道的に処理されるというものの、処遇は各自治体によってまちまちである。

日本にいる難民としてではないが、さらに広い意味でも難民という言葉が使用されている。アフリカの内乱、干ばつ等による被災民(流民)で、自国から逃れてきた場合はUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)がその保護にあたる。

		法律上の枠組	行政サービス	海外渡航	在留資格
狭義の難民	条約難民	ある	ある	再入国許可不要	難民
広義の難民	インドシナ難民	定住者	ある	再入国許可要	特別在留許可
		一時滞在者	ある		一時庇護
	イラン、アフガニスタン難民等	ない	まちまち	再入国許可要	一時庇護 旅行者、不法滞在者



(注) 1951年、「難民の地位に関する条約」、1967年、「難民の地位に関する議案書」の2つを指す。

日本語家庭教師活動の新体制

日本語家庭教師 落合正幸

昨年(2007年)の12月から日本語家庭教師活動者の受け入れと定住者への紹介を停止していましたが、この8月から再開しました。

この活動が非協力的な個人のものに留まってしまい、組織として対応できなくなったため、一時的に停止して再構成しようとしたのですが、思いのほか日数がかかってしまいました。

これまでの経過

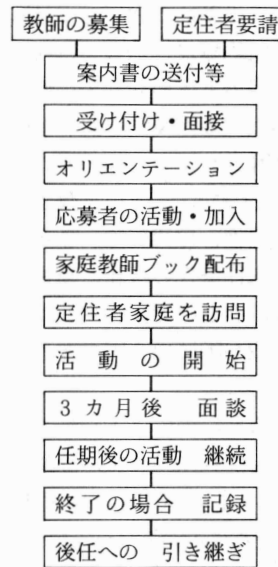
活動者はそれぞれの生活があり、その時間の中から家庭教師活動をしますが、その上にミーティングに参加し、活動全体を考えるのはおっくうになってしまうようです。そのために活動の推進は専従等限られた者だけにゆだねられてしまいました。日本語を教えてほしいという定住者は増える一方でしたが、そのままではただの紹介所ではありませんでした。

これらのことを意識しつつ私が調査に入ったのは今年の1月のことです。定住者の家庭に伺い、活動者の方々の勉強を見学したり、日本人への要請を集めたり、活動上の問題点の検討等を経て、やっと今年の3月に今後の日本語家庭教師活動についての促進原案を作成しました。その後4月から7月にかけて活動者全員による活動の評価、現況報告、全体ミーティングを行い活動体制を整えたのです。8月の再開まで実に7カ月。とても長い時間でした。定住者が不自由な日本語をなんとか克服したいと首を長くして待っています。また家庭教師をしようとする長い間待機していた方々もお待たせしました。まだいくつもの問題を解決しなければなりません、力を合わせて乗り越えていきましょう。

活動の新体制

新体制では活動者へのサポートを重視しています。これまでも定住者の起こす数々の問題に各家庭教師はかかわってきました。しかし問題はますます複雑、多様化しています。主に生活、医療、育児、職業などの相談を受けるのですが、対処できない問題も多くあります。また活動者自身の問題として日本語の教授法の相談がよく持ちこまれます。これらの相談に応えるため専門分野からの協力を得ました(右表

〔活動の流れ〕



法律に関する相談
佐藤安信(弁護士)
☆月に一度の法律学習会がある
担当 幕田恵美子

医療に関する相談
〔国際医療保健
情報センター〕
金田 衛(医師)
仲佐直子(看護婦)
他SHAREのメンバー

日本語に関する相談
〔JVC大和日本語教室〕
細川晴子(教師)
長谷川香織(教師)

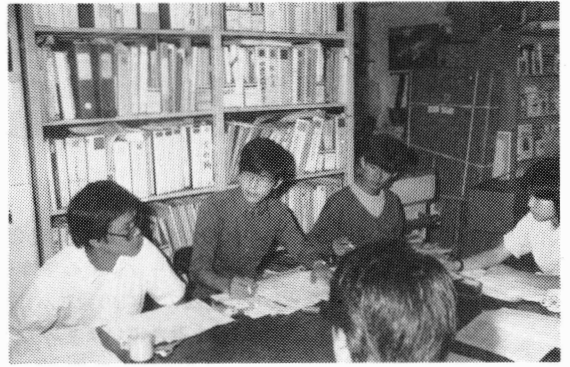
小中学生に関して
〔柳崎子供クラス〕
山畑 匡
☆相談に答える事は出来ませんが、子供の学習で悩んでいる方一緒に考えていきましょう

参照)。活動者がただ一人で悩むのではなく、全体にその問題を提起し、全員で考えられる体制にしていきます。

活動の流れは図の通りです。オリエンテーションは3項目に分けて実施されます。A日本語家庭教師活動の概略、B日本語の教授法について、Cボランティアについて。この中でCについて少し述べてみます。活動者の中には定住者に同情心だけで接する人がいます。私も含め、同情は活動を始める場合の大きな動機ですが、ここで気をつけなければならないのは、ボランティアの活動は決して対象者の自立を防げることがあってはならないということです。

定住者とピクニックへ行くことになった活動者が駅で全員の切符を買ってあげました。もちろん定住して間もない人は貧しい人が多いです。でも切符くらいは買えます。また彼らは料金表が読めず、買い方がわかりません。それでも私たちは黙って見てみましょう。彼らはあなたに「切符の買い方を教えてほしい」というでしょう。あなたは料金表の見方を日本語で教えます。彼らはきっと切符を買ってくるでしょう。同情と真の友情とは違うと思います。同情

すれば対等でなくなります。それは日本語家庭教師が経験から得た根本的な考え方です。教えることは難しいです。普通の日本人でも日本語を教えるためには高度な技術が必要です。活動の中で私たちができるのは日本語を教えるというよりも、日本語の勉強の仕方を教えるというべきでしょうか。切符を買うのも勉強するのも彼ら自身の努力によるものです。この活動を通して私たちは彼らの努力する姿に触れました。私たちは彼らの姿に自分よりもまさるものを感じ、時おり尊敬させられるのです。



タイの仲間たち

カオイダン



- ①熊木政江
- ②1963年1月25日
- ③群馬県出身
- ④1983年春
- ⑤学生
- ⑥ボランティア活動をした
たいと思っていた時、

JVCの名を雑誌で見つけた。“日本語家庭教師プロジェクト”に興味を持った。

- ⑦カオイダン・キャンプの技術学校で、クメール人とともに学校運営
- ⑧JVCの中で活動することで自分自身に変化してきた。JVCは活動者または関わりのある者にとって“考え始める”ことのきっかけを与えてくれる。生かすも殺すも自分次第なのだが、そのきっかけを大切に、話しあいながらさらに考える。JVCというよりもそれぞれの個人が、自分と相手を向上していくことが必要だと思う。
- ⑨まずは自分自身の生活態度、社会に対する目や姿勢を改善していきたい。そして感受性を養う。できるだけ多くの様々な立場にある人々と手をつないで問題を解決してゆけたらと思う。
- ⑩こんにちは。お仕事ご苦労様です。環境の違う所でもしかも厳しい気候の下でのお仕事は、ご苦労が多いことでしょうね。何らかの形でお話できたり、会うことができれば本当によいのですが。良い仕事をなさって下さい。

- ①名前 ②生年月日 ③出身地、国籍 ④JVCに入った、あるいは活動に参加した日 ⑤JVCに入る前は何をしていたのか ⑥なぜJVCにかかわったのか ⑦仕事の内容 ⑧JVCについて感じていること、または提言 ⑨これからどのようなことをしたいか ⑩ほかの国で働いているメンバーに伝えたいこと。

地域開発(C. D)



- ①サムルエイ・ジョンヨークロン
- ②1957年8月12日
- ③タイ
- ④1982年10月
- ⑤クロントイ青少年センターのボランティア

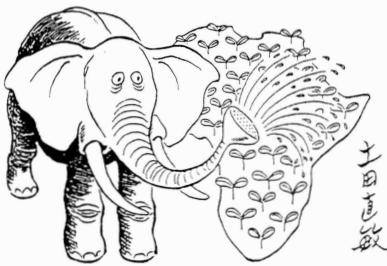
- ⑥JVC 図書館は子供と大人を刺激して、彼ら自身の成長にどれほど読書が価値のあるものか知らせる目的がある。この理念が素晴らしいと思い、子供と活動した経験もあったので、JVCスタッフになろうと思った。
- ⑦私の仕事は司書で、子供のための活動の準備をする。
- ⑧JVCの活動の目的は素晴らしいと思う。すべてのプログラムが継続し、向上していくことを望む。
- ⑨book bagを各地区にまわして、図書館と無縁で暮らしてきた対象グループのためにサービスを広げた。
- ⑩活動する上でお互いの意見を共有したいので、他のJVCスタッフを知りたい。もし時間があれば、あなたの仕事について知らせてほしい。

世界まんが博 '86——2

GREEN FOR AFRICA

日本漫画家協会

8月31日、40日間開かれていたまんが博の幕が閉じました。入場総数は73万4880人。このうちの何人の人がJVCのグリーン・キャンペーンに関心を持って下さったか心もとないのですが、Tシャツも150枚ほど売ることができました。関西の会員の皆さん、どうもご苦労様でした。展示されたまんがのパネルはJVCで保管します。貸し出しも考えていますのでその際にはご一報を下さい。



土田直敏



つのだじろう



寺尾知文



永井 豪



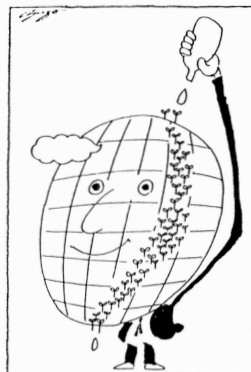
二階堂正弘



西村晃一



根本 進



野口裕三



畑田国男



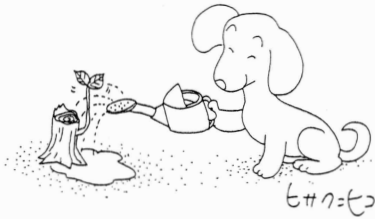
はとや やすふみ



針すなお



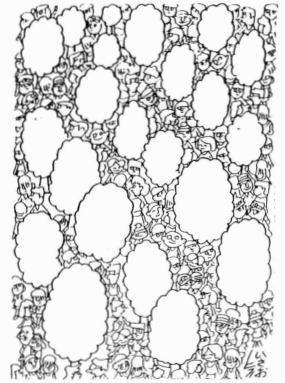
はんば 三部



ヒサ クニヒコ



平井 雄



平野 勲



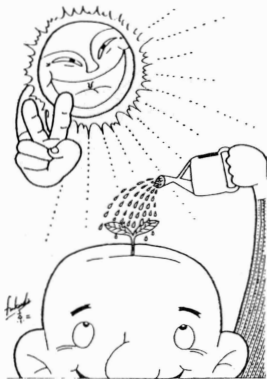
平村 丈男



深野 正二



福田 照



福田 京二



福田 三郎



藤井 茂



Fujibake

藤掛正邦

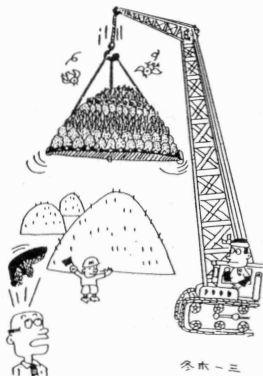


藤沢圭三



藤田 茂

作

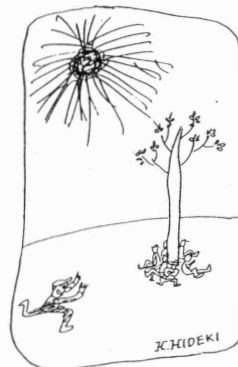


冬木一三

冬木一三



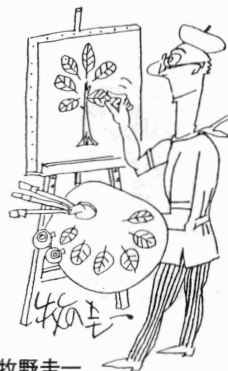
古川タク T.F.



細谷秀樹



前川かずお



牧野圭一



松本覚



RYOJI AIZUMI
1986

水野良太郎



みつはし ちかこ



御法
み

御法川富夫



安田卓矢



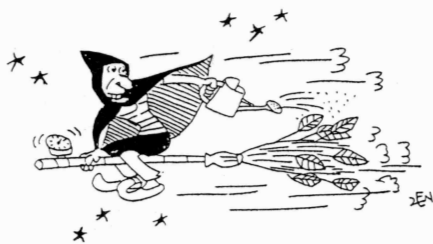
矢野 功



矢野 徳



山崎克己



山崎善一



山根あおおに



山根赤鬼



横山 隆



渡辺省三



わたなべ まさこ

弟の不幸せを知らない、兄・日本

わずか1週間のタイ観光旅行で、酒を飲みながら考えたこと A.G記

どうしてこんなに物価が安いのだろう？

シーバス・リーガルが1本2700円。日本では1万円でも売られているこのウイスキーが、免税店でもない、街のデパートで、この値段です。ほかには、ハイネケンのカンビールが210円、キリンのカンビールが230円と、お手ごろです。

根が酔っぱらいのせいで、酒の話から始めましたが、タイで一番強く感じたのは、物価の安さです。たとえば、街の屋台で食べる汁ビーフンは、安いところで30円、たいていは60円くらいでしょうか。量は多少、少なめですが、しっかり肉が入っていてスープも悪くありません。バスの最低料金が12円で、ボールペンも12円からありました。妻へのおみやげにした刺繍入り木綿のワンピースは600円でした。

次に気がついたのは、日本製の古い自動車が多いことです。20年以上も前の車も、現役で頑張っています。一番元気に走っていたのは、4～5年前の車でしょうか。日本人が乗らなくなった中古車を、輸出しているのかもしれませんが。車は人を移動させればいいとすれば、ボロボロになるまで使うのが正解かな、そんなことも感じました。

そして、3番目に感じたのは、日本との類似でした。街を歩いていても、夜、酒を飲んでいても、山間の少数民族をたずねても、そこに居る人の半分以上は、日本人ソックリです。チェンマイ北方の村のたたずまいは、日本の農村そっくり。コメを食べ、発酵を利用する「アジアの照葉樹林文化」。それが、本で学んだ、彼らと私たちの文化の名です。

「ビルマあたりのタイ族（の一部族）には、長男は中国人に、次男は日本人になり、この三男の自分たちはここに住んでいる、そんな言い伝えがあるよ」。

JVCカンパチアの熊岡さんは、こんな話をしてくれました。そういえば、日本人の起源をタイ族と同じ、中国南部、雲南省あたりとする説は、かなり有力なのだそうです。

私たちの労働は10倍の価値があるのか？

自分に似た顔のお嬢さんのそばで、安い酒を飲み

ながら、労働の価値とはなんだろう、お金とはなんだろう、そんなことを考え始めました。

観光客相手の酒場のホステスの多くは、売春をしています。値段は3000円くらいだそうです。日本の売春の相場は3万円くらいということですから約10分の1です。同じような“労働”をして、どうして、10倍の差があるのでしょうか。

私の冷房のきいた会社での仕事は、炎天下にシクロ（自転車と人力車を合わせたもの）を引く人の労働とくらべて、10倍の価値があるのか……。

酔いのまわった頭で、お金とは、労働の報酬とは、ひとつの社会における“富み＝財産”の取り分カード、そんなふうを考えてみました。働くことによって、その社会の持つ財産に対して取り分が生じる…。こう考えれば、食べものの値段も、売春の値段も、みんな日本の約10分の1ということに、納得がいきます。ただ、違うのは、日本とタイとの「社会の財産」の大きさなのだと。私の労働に価値があるのではなく、日本の社会が価値を持っているのだと。

ではなぜ、タイと日本で、こんなに差があるのでしょうか。それは、たぶん、日本で作っている電気製品や自動車のほうが、タイで作っている食糧より、人気が高いからでしょう。ご存じのように、タイは世界一の米の輸出国で、また串に刺した、焼き鳥用の冷凍臓物を、日本に輸出しています。

本当に、テレビやビデオのほうが、米より価値があるのかしら。ある日、食糧危機がきて、米のほうが、人気が出るかもしれません。そうなれば、私たちは変換比率を考えて車の値段を下げ、つまり私たちの給料を下げ、高くなった米を、うやうやしく買うことになるでしょう（今のところ、タイの米は、日本の米の10分の1の値段ですが）。

北の文化が入って、南は貧しくなり始める

タイと日本との交換比率が劇的に変わる、そんな日がやってくるのでしょうか？私の感想では、原発の事故でもないかぎりしばらくは、なさそうです。

というのは、経済援助とかなんとかいって、運河

を埋めて道路を作り、そこに自動車売り込む作戦は成功しています。今の道路の混みぐあいから考えて、地下鉄を掘るのはむずかしそうですから、タイの自動車輸入はまだ続きます。もちろん、輸出国がアメリカや韓国に替わるかもしれませんが。

また、テレビやビデオの売り込みも成功しています。チェンマイ郊外の、年収5万円以下といった農村地帯にも、ビデオやテレビは入りこみつつあります。「なに、年収5万円、それで生活できるのか」という疑問は当を得ていません。土地は先祖伝来、材木はとりほうだい、食糧は自給自足、という古典農村社会では、この収入でも、貧しいとは言えないのです。貧しさは、その人たちが、テレビやバイクを買おうとするとところに始まります。

これらの“文化製品”を買おうとすると、とたんに家計は破綻し、貧困は深刻化します。すべての余裕をそそぎこみ、田畑を手離すことになるでしょう。それでも足らなければ、娘たちを町にやって、働かせたり、一家中でスラムへ流れこむことにもなります。

そばの女性も、たぶんそんな理由で働いているんでしょう。私はタイに文化製品を売って儲けた分け前で、それを買うために水商売を始めた女性を相手に、旦那顔で酒を飲んでいるわけです。

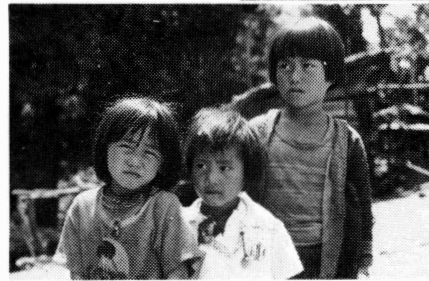
このような理由で、タイには水商売、観光客を相手に特別なサービスをする女性が急増しています。となれば、サービスの水準が上がり、価格の上昇が抑えられるのが市場の法則です。つまり、若くて、美しい女性が安い、ということです。タイ政府は、現在、国外からの観光客の受け入れに、躍起になっていますが、私の見るところ、最大の観光資源は彼女らのような気がします。

広がる格差のなかで、何をすればいいのか？

4歳になる息子へおもちゃを買おうと、デパートのおもちゃ売場へ行ったときのことです。できれば、タイで作られた模型をと思って、次から次へと、模型の自動車を裏返してみました。そこに見つけたのは made in Japan の文字。全体の7~8割が日本製、残りが香港や中華民国(台北)製で、タイ製のは1点も見当たりませんでした。

それどころか、おもちゃ売場全体に、日本製品があふれています。それも私ですら、しりごみするような高価なものばかり。合体メカロボット、北斗の拳セット、そしてファミコン……。これでは、タイのおもちゃメーカーは育たないな、そう直感しました。

日本人によく似ている山岳民族の子どもたち。彼らは焼畑農業を営む一方、観光の対象にも



水田で魚醬を作るための小魚を採る農婦。科学農法(農業)を持ちこめば小魚は死滅し、食生活も変化する。

たぶん、工業などの産品にも、こういったことはいえるでしょう。日本やアメリカなど北側諸国は援助と引き換えに、タイの関税や非関税による障壁を取り払わさしているに違いありません。私がデパートで見た安い輸入品が、それを物語っています。また、そのデパートそのものが、大丸やそごう、それにロビンソンなど北側資本なのです。

わずかにある余裕を、すべて吸収するような“文化製品”ラッシュ。その下で早急に資本の蓄積や国内産業の発達があるとは思えません。

つまり、北側とタイとが同じ土俵で競争させられているかぎり、この力関係は、あまり変わりそうになく、南側の人々の膏血(こうけつ)を絞る日本の繁栄はまだ続く、というのが私の結論です。

では、どうすれば、南側は脱け出ることができるか？ ひとつの政策は「鎖国」でしょう。

しかし、それを決めるのは、南側の人自身です。極論ですが、私が見た少数民族の生活——電気もガスもなく、土の上に寝、焼畑を耕やす。その生活にとどまれという権利は、誰にもないはずです。

さて、私たち北側人間が南側に対して、何ができるのか？ 開発援助——それは、非常にデリケートな問題です。北側の物質文明を押しつけないよう、彼ら自身の意思を確かめつつ、仕事を選ばなければなりません。だからといって、開発援助をしないことは、「やらずぶったくり」です。どんな仕事をしているにしろ、私たちの社会の繁栄が南の兄弟たちの汗の上になりたっているのですから。

さらに、北側の市民として、どのような生活態度が望ましいのか…。この問いに対する答えは、当然のことながら、タイでは思い浮かびませんでした。

これは、私の宿題です。これからもJVCとの関わりを続けながら、考えて行きたいと思っています。

同じ、応援を送ったことは目標達成に大きな支援となりました。主旨は大いに結構だがやれるかどうか疑問だと思った人は、ジュリアンさんが走った距離に対してそれが証明された時点で寄付をするという方式で支援しました。10キロに対して1円の人もいましたし、10円の人もいました。こうしてサイクル・ライド支援の予約寄付金は、出発当日までに75万円を集めました。それから希望者には、旅先からジュリアンさんが便りを出してくれるという約束もしてありました。きっと北や南のスタンプが押してある葉書が、それぞれの手元に届いたことでしょう。

私はたまたま帰っていた郷里の新聞でジュリアンさんがやって来たという記事を目にしました。「飢餓をなくそう、日本縦断3000キロ」と書かれたタスキをかけ、ガッツポーズをする元気な写真を見て嬉しくなりました。「これまでに道ゆく人や旅館で同宿した人からも“善意”が寄せられ、目標額の百万円を大きく上回りそうだ」と書いてありました。ジュリアンさんの走った後に彼のように“善意”を示すだけでなく“行動”をも示す人が一人でも多く出て来ることを願わずにはいられません。バンフォードさんは8月21日昼過ぎ鹿児島県の佐多岬に到着しました。(吉武)

あなたの町でタイの話をしませんか

83年より給水プロジェクトやバンコク事務所、地域開発チームで活動している佐藤正喜さんが、この10月中旬に一時帰国します。実は眼の手術のための帰国なのですが、10月下旬には、本人は一そう男前になって復活できると信じています。

そこで、読者の皆さんにお願いです。あなたの町で佐藤さんを囲む懇談会を10月下旬から11月上旬までの間に主催していただけませんか。タイのスラムや奨学金を受けている子どもたちのことはもちろん、タイのふつうの人々の生活なども話してもらえと思います。もちろん、スライド写真や資料はJVCで用意します。ただし、佐藤さんの交通費は主催者の方で用意していただくこととなります。詳しいことは東京事務所の村田までご連絡下さい。尚、お電話でのお問い合わせは、火曜日と木曜日をお願いします。

• 1986年「アフリカの角」ソマリアで

佐久間 典子 写真展開かれる



“ピント合わせが苦手なカメラマン”，東京事務所のスタッフ、佐久間典子の写真展が、9月17日(水)から9月29日(月)(ただし23日を除く)、東京・新宿のミノルタフォトスペース新宿で開かれます。話題の全自動一眼レフで撮影した、ルークの農場、補助給食と医療プロジェクトを行っているマグドール・キャンプ、ジャボレ新キャンプの“土”“ひと”“緑”などカラー47点を展示。そのうち25点を掲載したカタログも販売します。お近くにお出かけのときは、是非いらしてください。

—お知らせ—

10月4日(土) 1:00～5:00 PM

シンポジウム「第三世界とわたしたち」

—国際的の市民連帯は可能か—

発言者 北沢洋子(アジア太平洋資料センター)
鈴木佑司(法政大学法学部教授)
松井やより(朝日新聞社会部編集委員)
大橋正明(シャプラニール代表)
岩崎駿介(JVC代表)

司会 岡本 厚(岩波書店『世界』編集部)

場所 文京区民センター ☎03(814)6731

主催 日本国際ボランティアセンター

10月4日(土)

第42回ユネスコ運動全国大会

シンポジウム「生きてきた世代、そして若い人びとへ」

発言者 足立原貫(21世紀を見よう会代表)
木下忠司(作曲家)
竹田津実(きたきつね保護運動家)
星野昌子(JVC事務局長)

司会 伊藤 昇(ユネスコ協会連盟理事長)

場所 ニュー北海ホテル ☎0166-24-3111

JVCプロジェクト

1986年8月25日 現在

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
東京本部	渉外, 事業計画, 資金調達, ボランティア調整, 会計, 総務, 情報収集および広報等。 機関誌『トライアル・アンド・エラー』発行。 JVC 説明会 - 毎月第1月曜日 午後6時~9時 第3日曜日 午後1時~4時 学習会 第4月曜日 午後6時~9時	全国社会福祉協議会	岩崎駿介 (代表) 星野昌子 (事務局長) 柴田久史, 佐々木志保, 加納 妙, 前川昌代, 佐久間典子, 古西 勇, 他15人
日本国内	●日本語家庭教師 各地域別の話しあいを始めている。連絡係が替わり, 新しい連絡係へ業務を引き継ぐ作業を行っている。 各国語によるパンフレットの作成も終了。 大和教室は夏休み中。埼玉の柳崎地区で子供クラスの開設を準備中である。 機関誌『そんぼっと』を発行している。	ジャパン・タイムズ 神奈川県福祉部	森山久寿子, 落合正幸 地区連絡係10人 他約70人
ソマリア モガディシュ 事務所	渉外, 事業計画, 会計, 総務。	UNHCR R.I. ジャパン 創価学会文化・ 平和運動事務局 ジャパン・タイムズ	嶋 紀晶, 五十嵐裕昌, シアッド
マガネイ・キャンプ (ゲドール郡)	●農業による自立促進 / 定住 収穫がほぼ終る。unit 4 を除いて収穫量が落ちる。 堆肥を作り始める。植林のための苗床作りがスタート 定住計画は教育, 植林プログラムのほかはペース ダウンする。	ジャパン・タイムズ	鶴田三芳, 荻ノ迫善六, 山口誠史, 柿原建三, 法橋 亮, モハメッド, ラシッド, ハジ, アオキ 船川秀夫, 南部良一
マグドール・キャンプ (ゲドール郡)	●医療・保健 / 補助給食 7月23日, ジャボレの難民移送が開始され, 1200人 が移る。移送のため週に3日はクリニックを閉めな ければならなかった。 コミュニケイ・ヘルスワーカーと研修生のための勉 強会を開く。	朝日新聞厚生文 化事業団 モラロジ-MIRC 仏国土をつくら う会 砂漠に種をまく 人の会	樫田秀樹, 石井弘代, シェイク・アブディ
ジャボレ・キャンプ (ヒラン郡)	●医療・保健 / 補助給食 午後の給食の出席者が激減する。 コミュニケイ・ヘルスワーカーと助産婦の訓練開始。 ●植林 他 植林地に100数本の木を移植した。すべてが手作り といってよい施設, 物が整ってきている。		掛村 均, 米澤 聡, 中路美和子, 庄司 美, 高畑辰弘, シュクリ, ハッサン, アブディ
エチオピア (ウォロ州)	●総合的復興促進 種子銀行の貸し付けを終了。倉庫, 事務所等の建設 も完成間近だが, 雨季に入って車が通行できず, ロ バで輸送を行うため難行。 道路補修は継続中。	朝日新聞厚生文 化事業団, 山の 手(チャリティー) ウォーク, CRDA BAND-AID 西本願寺 モラロジ-MIRC	内山田 康, 林 達雄, 伊藤達男, 伊藤幸子, 内藤のぞみ, 久田信一郎
人材派遣プロジェクト			
フィリピン (PFAC, パラワン島)	●国際移民委員会(ICM) - 第三国定住手続きにとも なう医療業務及びキャンプ内でのプライマリ・ヘルス ケア。	城西病院	青井千恵

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
タイ バンコク事務所	渉外, 事業計画, 資金調達, ボランティア調整, 会計, 総務, 情報収集および広報, バザー, 古本のセール。 季刊『ニュース・レター』(英語・タイ語)発行。	全国社会福祉協議会	ボンピモン・チャイブーン, カモン・ミンムアン, 斎藤美香代, 他約10人
カオイダン (カンブチア 難民キャンプ)	●西崎憲司記念技術学校 難民の第三国定住, 本国帰環双方の場合に備えて自立のための職業訓練を実施。現在は自動車, 単車, 1 シリングの各エンジンクラス, 溶接クラス, ワークショップクラス合せて1017人の生徒が学んでいる。カオイダンが年内にも閉じるかもしれないという緊張感の中で, 残り少ない技術訓練の機会を求めてさらに生徒の数が 증가することが予想される。	UNHCR R.I. ジャパン 妙心寺派宗務所 花園会	熊木政江, 谷山博史, トンディー・ソムカネ, ソムヨット・ラタナタム
国境のサイト2, ノンチャン (カンブチア 難民村)	●補助給食 キャンプでチフスが流行しているため, 医療, 衛生, 教育, 給食担当の団体が一緒になって8月4~9日の1週間“腸チフスキャンペーン”を行った。 8月25日に妊婦の適格検査が行われる予定。	WFP/UNBRO	テリース, ブーム, トンチャイ, 蓮尾慶治, 仲田奈々子, ソムボン, スピチャ, エンドリアン, ソムサック, スリペン
バナニコム (第三国定住待ち 難民一次収容施設)	●文化オリエンテーション ●日本定住予定者 ①日本語学習の基礎(読み, 書き, 聞き取り) ②日本語の日常会話の習得 ③日本に関する概略的な理解を促す ④渡航に必要な事柄への理解と実習 ●日本以外の国への定住予定者に手続きの理解を深める。 ●子供レクリエーション・プログラム ペーパークラフト, リズム音楽, 集団ゲームなど。	天理教千葉	浜崎妙子, 大場きみよ アナン・プッタミリンパティ
地域開発 (バンコク市内の スラム地区)	●奨学金援助 スラム在住児童が小学校(6年間)を卒業できるよう援助している。本年度の対象者は10のスラムで16校250人。 ●クロントイ図書館 クロントイスラム住民の就学前児童から成人までを対象としている。12区における新図書館建設のため, NHA(住宅公社)と交渉中。 ●移動図書 ラプレー, ナンシーのスラムで子供向け図書を中心に回覧。 ●移動学習センター(プラティープ財団, FFSC, JSRCとの共同プロジェクト) 9のスラムで学習の機会のない子供たちのため人形劇などで教育を行っている。 ●再定住 ラッカバン地区において再定住したバンコク市内の人たちへの資材援助(長期資金貸与方式)。	モラロジーMIRC NTV, JOFIC 庭野平和財団 京都国際青年委員会	ヴァラナート・チュンクン, サムルエイ・ジョンヨークラン, アルニー・スニット・ムンナイ, レラ・クンナロン, スワン・リンサムベン, コメイン・スンサマラ 佐藤正喜
カンブチア (ブノンベン)	●カンブチアの人々への総合的人道援助 8月21日よりSHAREの医師2人, 看護婦1人, 栄養士1人の視察団がブノンベン入りしている。救援のためのワークショップ/技術学校の建設工事がセメントの到着を待って始められる。OXFAMと共同で井戸掘りプロジェクトを行うための交渉が重ねられている。 ブレック・ピノウの孤児院の老朽化した男子用宿舎の補修のための資金援助を, ワールド・ビジョンを通じて行っている。	日本青年会議所 関東地区協議会, 全国老人クラブ 連合会, 創価学 会文化・平和運 動事務局 モラロジーMIRC	熊岡路矢, 簗田健一

JVCの活動とその目的に御理解を

▶**JVCとは**—Japan International Volunteer Centerは1980年2月、タイのバンコクで設立された民間救援団体です。1979年暮れの、インドシナ難民の大量流出をきっかけに、日本から駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人とが一体となり、現在の組織の原形ができました。JVCは、活動者の自発的な意志に基づき、日本の個人・団体からの寄付金、国連機関からの委託金等によって運営されています。JVCは、人種、国籍、習慣、宗教その他の信条の違いを越えて、難民および同様の窮境にある人々を対象にできる限り継続的な活動を行ないます。

▶**JVCの会員募集について**—会員は、総会に出席し、JVCの方針などを決定する他、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・上映会・学習会等へ参加することができます。また正会員には自動的に、機関誌(T/E)をお送りいたします。会員の種別と年会費は以下の通りです。

- ・正会員 (一般会員 10,000円 活動者会員 3,000円
 団体会員 30,000円 学生会員 3,000円)
- ・賛助会員 金品による支援(金額は自由です。)

▶**機関誌『Trial & Error』のみの購読について**

- ・毎号1冊送付 年間購読料 3,000円
- ・毎号4冊送付 年間購読料 10,000円

▶**送金の方法**—下記の口座へ郵便振替にてご入金下さい。

- ①会員：東京 5-48365 加入者名—JVC会員係
- ②T/E：東京 3-54186 加入者名—JVC東京事務所
 (住所、氏名、購読開始月をお書き添下さい。)

▶みなさまの募金が支えるJVCの活動—救援活動をより充実させるため、以下の募金をお願いしています。なお募金の20%をJVCの運営経費に充当させていただいています。

- A. **アフリカ難民救援募金** (8月小計 36,440円) アフリカの難民・飢餓民への救援プロジェクトに使われます。
- B. **インドシナ難民救援募金** (8月小計 13,300円) タイ国内にある各難民キャンプのプロジェクト費にあてられます。
- C. **カンブチア募金** (8月小計 48,300円) カンブチア国内の復興のために使われます。
- D. **クロントイ・スラム募金** (8月小計 5,300円) バンコクのクロントイ・スラム内の図書館の運営およびスラム立退き者のための建築資材購入費に使われます。
- E. **デッグ・スラム奨学金・基金** (8月小計 44,300円) バンコク市内のスラムの子供達が学校へ通う費用を援助します。
- F. **日本語家庭教師募金** (8月小計 29,909円) 定住難民のための日本語教材費と家庭教師の交通費に使われます。
- G. **医療募金** (8月小計 10,300円) 緊急事態が発生した場合、速やかに医師を派遣したり、医薬品などの緊急救援物資を輸送するために使われます。
- H. **ボランティア募金** (8月小計 2,030円) 現場で活動を続けるボランティアの健康管理費にあてられます。
- I. **JVC運営経費募金** (8月小計 12,300円) 現場を支えるのに不可欠な事務運営経費、人件費に使われます。
- J. **無指定募金** (8月小計 237,143円)

▶**送金の方法**—下記の口座へ郵便振替にてご入金下さい。

- 東京 9-27495 (募金種目名をご記入下さい。)
- 加入者名—JVC東京事務所

編集後記

▶カンブチアの人の中には、お茶の水の聖橋から見る風景が好きだという人がいる。川面に映る夕陽を見ているとふるさとの運河を思い出すらしい。日本での生活にもすっかり慣れ、たくましく生きている彼らの中にある、核のようなものに触れた気がした。

▶定住している若者たちの話はくたくたがなく明るい。車、スポーツ、音楽、何が何だかこちらはまるでわからない。彼らは自分が選んだ、あるいはそうせざるを得なかった人生を懸命に生きている。彼らには人間が本来持っている強さと厳しさがあるように思う。人はどこでも生きられると。人は生まれる時も死ぬ時も結局は1人なんだと。



昭和61年9月20日発行(毎月20日発行)

編集人 前川 昌代
 発行人 星野 昌子
 発行所 日本国際ボランティアセンター(JVC)東京事務所
 〒113 東京都文京区湯島3-1-4 会田ビル5階
 ☎03(834)2388 Telex: 2323187 JVC HQ J

バンコク事務所 JVC THAILAND
 67 South Sathorn Road
 Bangkok, THAILAND
 ☎(286) 4857
 Telex: 87032 COMSERV TH

ソマリア事務所 JVC SOMALIA
 c/o UNHCR P.O. Box 2925
 Mogadish, SOMALIA
 Telex: 794 HICOMREF SM

エチオピア事務所 JVC ETHIOPIA
 P. O. Box 6941
 Addis Ababa, ETHIOPIA

印刷所 (株)ベスト・プリンティング

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

定価 送料共300円